

令和5年度第2回京丹後市観光立市推進会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年3月26日(火)午後1時30分～
- 2 開催場所 京丹後市役所峰山庁舎 205会議室
- 3 出席者等 坂上英彦会長、田中智子副会長、浅田高史委員、和田正人委員、日達ゆみ子委員、今井みどり委員、丸田智代子委員、松本進一郎委員、濱口真一委員、中川秀雄委員、味田佳子委員、上田美知子委員、松尾信介委員、鎌田誠委員、田矢佳子委員、伊豆田千加委員、前田将汰委員、秋田裕美委員、久田千恵子委員

事務局	(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	木村嘉充
	(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	中山彰人
	京丹後市商工観光部長	高橋尚義
	〃 商工観光部観光振興課	大江裕、木本貴文、山添力也、 上羽克、林有彩
市関係部局	市民環境部生活環境課	宇野浩嗣
(zoom参加)	農林水産部農業振興課	松下幸弘
	教育委員会生涯学習課	安達純

- 4 議題及び会費の公開又は非公開の別 【公開】
第4次京丹後市観光振興計画の進捗状況について
「浅茂川温泉静の里を活用した観光振興」について
- 5 傍聴人の数 なし

- 6 発言の内容(要旨)
<高橋商工観光部長>

それでは、本日大変悪天候、嵐のような天候になってしまいましたけれども、お足元が悪く、またお忙しいところご出席を賜りましてありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第2回目になりますが、京丹後市観光立市推進会議を開催させていただきます。

私、本日の司会を務めさせていただきます、京丹後市商工観光部の高橋でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。ちょっと座って進行させていただきます。

それでは会議に先立ちまして、この度、新たに委員委嘱をさせていただいたわけですが、前回、会議にご欠席だった方をご紹介します。

公益財団法人丹後地域地場産業振興センター専務理事の鎌田誠様でございます。

今年9月30日までの任期となります。どうぞよろしくお願いいたします。

それから、お手元に配席表をお配りさせていただいていますが、今日ZOOM参加の方もいらっしゃるしますので、少し配席図と違った形で、この会場内、ちょっと構成をさせていただいております。大変失礼をいたします。

本日の出席者のご紹介につきましては、時間の都合上、お手元に配付いたしておりますこの配席図をご確認いただくということで、ご了承いただきたいという風に思います。

また本日ご欠席の、坂根様、山口様、谷口様、大亀様、飯島様、小笹様、桐村様、亀谷様の合計8名の方からは、委任状をご提出いただいております。

従いまして、本日のご出席につきましては、委任状も含めまして27名となります。

委員定数の半数以上を満たしておりますので、条例第28条の第2項によりまして、会議が開催をできますことをご報告させていただきます。

それでは開会にあたりまして、坂上会長に一言お願いを申し上げます。

<坂上会長>

こんにちは。最近、観光単価が非常に上がってきておりまして、宿泊単価が2倍から3倍ぐらいになっているのではないかなと思います。これは主にお客さんが、インバウンドの人たち向けの価格に、日本の宿泊単価が、そちらの方に流れてきていて、私たち日本人は、所得がそんなに上がっていないので、ちょっと少し驚く状況になってきているかと思っています。結果として主要な観光地は、外国人で溢れているという状態になっているのではないかなと思います。

京丹後市では、インバウンドの数がまだまだ伸びる余地があるかと思っていますので、今後の1つの大きな課題になってくるのではないかなという風に感じております。

どうぞ今日も、皆さん、ご熱心に議論いただきますようよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

<高橋商工観光部長>

ありがとうございます。それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

たくさん会議資料をお配りさせていただいております。

本日の資料ですけれども、議事の(1)の関係ですが、資料の1から3になります。

資料1は、令和4年の観光入込客数等の状況、資料2は、第4次京丹後市観光振興計画アクションプロジェクト実施調書、資料3は、令和4年KPI実績・令和5年アクションプラン進捗管理でございます。

議事(2)の関係ですが、資料4から8になります。資料4は、第1回観光立市推進会議「グループディスカッション」での主な意見。資料5は、京丹後市における新たな休憩施設等に関するニーズ調査(観光事業者向け)として、聞き取り調査結果概要となっております。資料6は、京丹後市における新たな休憩施設等に関するニーズ調査(観光者向け)の聞き取り調査結果概要となっております。資料7は、神奈川県三浦市の視察概要報告。資料8は、臨時検討委員(案)です。不足はございませんでしょうか。

特になさそうですので進めさせていただきます。

本日の資料につきましてもお手元のファイルに保存をいただければという風に存じます。

それでは、会議の方に入りたいと思います。

ご案内いたしました通り、本日は2つのテーマについてご審議を賜りたいと思います。

1点目ですけれども、第4次観光振興計画の進捗管理です。

今年は第4次計画の1年目に当たりますが、まだ年度途中ということもありますので、令和4年度の実績と、令和5年度の事業実施状況等について、ご報告をしご審議をいただければと思います。

2つ目です。前回に引き続いて、浅茂川温泉静の里を活用した観光振興につきまして、ご審議をいただきたいと存じます。

では早速、条例第28条の規定に基づきまして、ここからは坂上会長に議長をお世話になり、議事を進めていただきたいと存じます。坂上会長、どうぞよろしくお願いいたします。

<坂上会長>

はい。では議長を務めさせていただきます。着座にて進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。会議に入ります前に、会議録の確認者の指名をさせていただきます。浅田さん、日達さんよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。はい。よろしくお願いいたします。

皆さんスムーズな進行にご協力をお願いいたします。

では、次第に沿って進めさせていただきます。まず、1つ目の議事の、第4次観光振興計画の進捗状況について、審議を行います。これは、いつも毎年3月に定例的に審議をいただく会議でございます。すでに資料1と2については、事前に送付させていただいておりますので、時間の都合上、資料3について事務局から、3のみ説明をいただき、資料1から3を通して、議論をしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

<大江観光振興課長>

失礼します。観光振興課の大江でございます。よろしくお願いいたします。着座にて説明させていただきます。

それでは、先ほどございましたように、1、2は説明を割愛させていただいて、資料3をご覧ください。横型の資料でございます。

第4次計画が、令和5年度から、つまり今年度は1年目ということではあるのですが、まだ1年目が年度途中で、数値がまとまっておりませんので、令和4年の実績と令和5年度の状況ということで、ご紹介したいと思っております。

令和4年の入り込みの方でございますが、新型コロナのコロナ前ですね。令和元年の8割超、83%ぐらいまでは、令和4年で戻ってきているという状況でございます。

その内訳として宿泊客は97.2%、日帰り客は80%ということで、それぞれ、特に宿泊の方について戻ってきているという状況がわかります。

年間の消費額でございますが、高付加価値の取組が、各事業所でずっと行われておりますが、そういったことであつたり、資材の値段の関係であつたり、そういったもろもろの要因もございまして、元年度比で111.2%ということで、コロナ前を、消費額については上回っているということでございます。

内訳として、宿泊の消費額は65億3,100万、130%、日帰りの方は、13億6,500万で63%という状況でございます。宿泊客の宿泊単価が、全体を引き上げているということでございます。

それと、本計画の指標が2つございまして、宿泊者の平準化率、つまり、一番大きな京丹後の観光の課題が、二季型観光と夏と冬に特化してるということでございまして、なるべくこれを通年で、いつでも来ていただける観光地にしたいということで、この計画の目標値として持っておりますが、令和4年度の状況が、そこに4、6、9、10月、一番閑散期と言われる月ですね。こちらが人泊数で1万2,859人、逆に繁忙期、8、11、12、1月、こちらが、2万7,007人ということでございまして。割り戻しますと47.6%ということで、元年度時は、42%ということですので、5.6ポイントほど上向いてるということでございまして。

そして、資料2でアクションプロジェクトの総括表を送らせていただいていたと思いますが、今回の計画に基づいて、アクションプロジェクトを57項目挙げております。

これにつきまして、市役所庁内の全課、あるいは観光公社、それ以外の事業者様も含め、取組をまとめましたところ、57分の57ということで、一応、全項目について実施または着手という状況でございまして。引き続き皆さんと力を合わせて、一体となって取り組んでいきたいということでございまして。

もう1つの指標がございまして、再来訪意向率ということで、何度でも訪れたい観光地を目指したいということで、リピーターを増やそうということでございまして、これにつきましては、元のデータが海の京都DMOの満足度調査に基づいておりますので、この調査はまだ出ておりませんので、ちょっと今日、ご紹介するわけにはちょっといかないということでございます。

令和元年度が67%、令和9年度の目標が85%ということでございまして。

資料3につきましては以上でございまして。

<坂上会長>

続いての説明はございませんでしょうか。

<大江観光振興課長>

すいません。それでは引き続き、近況につきまして観光公社の木村専務から、説明をさせていただきます。

<木村専務>

最近の観光動向についてお話しします。

今日、じゃらんの前田さんに来ていただいているのですが、某大手OTAさんのデータ等に基づきまして、少し説明させていただきます。

まず、宿泊人数の推移なんですが、この点線の方が、「天橋立、宮津、舞鶴」、実線の方が、「丹後、久美浜」で京丹後ということで、ちっちゃい点線は、「綾部、福知山」の方ですが、これが、過去3年間の動きを、月別に出しているのですが、若干、やっぱり天橋立等と比べると、京丹後は減ってきています。

夏と冬は、大体同じぐらいまであったのですが、少し減ってきています。ただ、昨年12月から、京都府のプロジェクトがあったので、データ的には、ちょっと実際のデータと少し違うかもわかりません。ただ先ほど会長さんの方からあったのですが、最近、逆に平均単価が上がっているという話があったのですが、京丹後、実は天橋立等と比べても、非常に高くなっています。

これは春から冬まで年間を通して高いという状況で、一般的には、夏と冬が多いので、夏冬は高くなるはずなんですけれども、春も秋も結構高いと。冬になったら、もう天橋立等に比べると、倍にぐらいあると。これは悪いことではなくて、この観光振興計画の中でも高付加価値化ということをして、京丹後は目指していますので良いのです。

そういったところで、少しですが、いわゆる、これからレベニューマネジメントといいますか、春と秋の閑散期に、今のようなままでいいのかどうかということが、ここの宿泊施設さんのデータによって、これから考えていかなければならないのではないかなと思っています。そういったところから、今年度の全体を見るとですね、左側が「天橋立、宮津、舞鶴」、右側が、「丹後、久美浜」というか京丹後です。緑が宿泊人数だということで、大体6割ぐらいしか、今年度はちょっと減っているのですけれども、来ているのですが、ただ取扱額、宿泊費用なんですけど、110%で1割増。非常にやっぱり、この辺では、高付加価値化ができています。単価的には、1.66倍ということで、京丹後が高くなっているということで、おおむねこの近辺で一番高いのは、有馬温泉。次が、城崎と、最近、そこに京丹後が肩を並べるような感じじゃないかなという風に見ていまして、そのあとに、天橋立があって、その下があと白浜かな。さらに、淡路島という感じで、京丹後が相当高くなっているということは事実です。これが、最近の動向の特徴的なことだということで、見ていただけたらと思います。

宿泊客数だけを見てみると、こっちの左側が日本人なのですけれども、今年度、これは大体9割、コロナ前から比べると9割ぐらいになっています。まだ今、高付加価値化の事業で、いろんな宿泊施設さん、相当改修もされているので、実質人数が減っているというのは、こういうところに出てきているのではないかなと思っています。ただ、先ほども言いましたように、相当単価が上がっているんで、一定の売上はあるのではないかなと思います。

あと外国人にしましても、ほとんどコロナ前に戻っているという形です。最近、外国人の方では、台湾、韓国の方々が非常に多いということで、小グループの方々が結構多く来られています。今のところで、前田さん何かありますか。

<前田委員>

ありがとうございます。1点補足させていただくと、単価が上がっているところで、私の手元で、この2月の数字を見ていたのですけれども、2019年、コロナの前でいくと、大体、エリアの一番売れどころの客単価というのが、1万8,000円から2万円ぐらいがピーク、全体が一番山が高くなる客単価であるのですけれども、この直近の2月でいくと、この一番高くなるのが、実は3万円。2万5,000円から3万円のところに、一番大きな山が来ていまして、全体の大体40%ぐらいの予約が、客単価が3万円を超えてくるというような形で、この北部の中では、一番、単価が高価値化で進んでいっちゃうような状況じゃないかなという風に見ております。

<木村専務>

はい。ありがとうございます。そういったところで、観光公社としても、どんどんプロモーションを続けていまして、特に、春は、観光客がいきなり少なくなる時期ですので、プロモーションを進めています。

そんな中で、ホームページで、特設ページなんかは当然設けているのですが、特に、デジタルサイネージ広告といいまして、この3月の18日から24日まで、JR西日本ですとかの、主要な5駅ぐらいで、デジタルサイネージをやっております。

ちょっとこんな感じで春らしいのを、これは、6分に1回、15秒間がずっと各主要駅で流れていまして、最近のデータによりますと、大体認知度が25%ぐらい、通られた方の4人に1人は見たよという認知をされているという風にできます。

あと、最近の戦略としては、この一番最後にも、出しているのですけれども、最近、伊根とか、天橋立が、京丹後の一部だみたいな形で、誤解されている面もあって、ただ、伊根の方に行きたいのだけれど、泊まってみたら京丹後だったみたいな方が結構ありまして、そんなものも活かしながら、これからはやっぱり伊根、天橋立、また城崎なんかは、本当に近いところですよ。ここで、泊まってもらってゆっくりしてくださいみたいな形のプロモーションなんかもしていきたいなという風に思っています。大体そういった程度です。

他にもずっといろんなプロモーションをやっていますが、あと、ちょっと私の方から言うのはどうなのかなと思うのですが、美食都市アワード、京丹後が全国で5つの町から選ばれたということで、この前ありました。金沢だとか、そんなところも含めてなんですけれども、これは、6年前にこの観光振興計画を、「旬でもてなす食のまち京丹後」ということで打ち出して、非常に食の、美食といいますか、関係の施策をいろいろと進めてきたというところがあります。

ちょっとこの、広報誌の中では、若干、今まで進めてきたことではなく、このアワードの説明ばかりになっていますけれども、結局、この観光振興計画の中で、特に力を入れてきた5年間の1つの、ほんの1つの結果なんですけれども、まだまだこういった具体的な、まだ走り出したばかりの施策だと思しますので、さらに、こういったことを、今後、続けていくべきじゃないかなと思っていて、そういった具体的に、どんな施策をするかによって、こういった結果が、いろいろと見えてくるんじゃないかなという風に感じています。

ここに書いてある取組によって、実は、美食都市アワードに選ばれたというよりは、本当は、観光振興課さんの方で取り組まれてきたガストロノミカのイベントですとか、フルートトレイルだとか、今度進めようとしている活イカの関係だとか、そういったことが実は評価されているという風に思っています。とりあえず以上です。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。最近の状況、具体的なプロモーションの内容等についてご報告をいただきました。定例の1年間の進捗についての、皆様方のご意見をぜひ伺いしたいと思っております。

まず、ご説明いただきました内容について、ご質問ございませんでしょうか。

木村さん、デジタルサイネージは5つの駅、具体的には、大阪駅と京都駅は入っているかと思うのですが、他はどのような駅なのでしょう。

<木村専務>

大阪駅と、京都駅と、三宮駅と、新大阪駅と、梅田駅です。

<坂上会長>

はい、ありがとうございます。大きな柱に、モニターで大きなモニターで写っている。

<木村専務>

はい。それが142面全部であります。

<坂上会長>

全面ですか。

<木村専務>

こういう、でかい縦2メートル、横1メートル以上のものが142面に映っているんです。

<坂上会長>

すごいお金ですね。はい。ありがとうございます。

まず、相当主要な関西の都市で、京丹後がアピールを具体的にされているということのご報告であったかと思えます。

はい。是非お願いします。

<田矢委員>

すいません、質問といたしますか、もしデータがあれば教えていただきたいのですが、先ほどの資料3の宿泊者数平準化率のところ、例えば、他地域、天橋立ですとかそういったところの平準化率というのがどれぐらいなのかということと、あとこれ宿泊の平準化率ですけど、他、日帰りも含めて、わかるようであれば、どれぐらいの数値になるのか知りたいです。

<坂上会長>

はい。ちょっと時間がかかるかと思いますが、いかがでしょうか。わかりますでしょうか。天橋立とか他がわかるとありがたいですね。

<大江観光振興課長>

次回宿題で。ちょっと、今手元に数字がございません。

<坂上会長>

個別に、またお返事さしていただいてもいいかなと思いますが。はい。他いかがでしょうか。はい、どうぞ。

<上田委員>

すいません。宿泊数なんですけれども、1泊が多いのか、連泊の状況はどうなんですか。ちょっと、どういう状況かなと思ひまして、質問します。

<坂上会長>

はい。連泊比率になるのでしょうか。

<木村専務>

ありがとうございます。京丹後の場合は、ほとんどが1泊2日です。外国人の方でも、やっぱり1泊か、2泊されるような場合は、民泊的なところといいですか、そういうところは少し長いのですけれども、やっぱり旅館系のところは、1泊ぐらいです。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。他ございませんでしょうか。いかがでしょうか。丸田さん、琴引浜の方は、宿泊単価等の状況はいかがでしょうか。

<丸田委員>

はい。すいません。琴引浜から来ました。冬場が、ほとんどメインの収入源になっていて、その中で、やっぱりカニという食材が、すごくこんな言い方したら、お客様には悪いのですけれども、単価を上げる1つの大きな、カニを扱っていますということで、大きくバーンと出ささせていただきまして、はい、それなので、結構、コロナ禍でも、コロナの間に、お受けする組数制限とていうのを、やっぱりどこのお宿も、琴引浜の方でもされていて、それに伴い、お宿の方の改装とかも入られて、全体的には宿泊人数を抑えて、それとやっぱり単価を上げる。要因としては、やっぱりカニ料理ということで、上げやすかったというのが実情じゃないかなと。それは多分、琴引浜だけではなくて、夕日ヶ浦とかもそうだろうとは思いますが。だから、言ったら上げやすい状態には、今あるのかなと思います。

<坂上会長>

春と秋の平準化率が上がったというデータがあるのですが、そちらの方はどうなんでしょう。

<丸田委員>

なかなかまだまだ、私どもの方は、ちょっと琴引浜に関しては、やはり家族経営がほとんどのお宿ですので、夏と冬は、もう死ぬほど仕事しまして、春と秋ちょっとゆっくりしたいとか、家族に対する時間を取りたいということで、やっぱりなかなか春と秋の稼働は、すぐには上がっているようには見えないんですけれども。

<坂上会長>

実情に応じているということ。

<丸田委員>

本当は、ずっとそれはもう長年、我々の職業は課題ではありました。もう、春と秋何とかしようというのはありましたのですけれども、確かに、インバウンドがなんか元に戻っているというお話があったのですが、私どもの方とか、琴引浜の方の様子を見ている

と、そんなに増えている様子はないので、多分これ、ゲストハウスとかはどのような風にカウントされているのか。観光公社に加入されていないところは、数に入っていないのかなとか思いながら、そこら辺でゲストハウスみたいなのは多分増えていると思うので、そういう面では、そういうところにインバウンドのお客様が流れているのかなとは思っているのですけれど。

私どもみたいな1泊2食つきで、春秋素泊まりやろうというところは、そんなに増えているようには見えないのですけれど、どのようなカウントなのでしょう。

<坂上会長>

ありがとうございます。いかがでしょうか。ゲストハウスの取り扱いについて。

<木村専務>

おっしゃる通りで、ゲストハウスだと思うのですが、先ほどのデータは、京丹後の主要8施設のデータとして、観光公社に入っておられない、そういったゲストハウスのところは、ちょっとデータとして上がってはいないんです。上がっていないのですけれども、主要8施設の中でも増えています。先ほどありました、どちらかと言うと、ホテル系が少し増えています。団体の関係で。台湾、韓国、香港あたりが、あとアメリカもあるのですが、そういったところが増えているようです。

<丸田委員>

ありがとうございます。それこそ、コロナ前は、琴引浜ももうインバウンドで、結構、素泊まりのお客さんとかも受けていたのですけれども、まだまだ可能性はあるという事で、はい、ありがとうございます。

<木村専務>

これから伸びしろがまだまだあります。

<坂上会長>

ありがとうございます。他いかがでしょうか。ございませんでしょうか。前田さん何かコメントが、1年間の評価を、通していかがでしょうか。

<前田委員>

そうですね。先ほど丸田さんもおっしゃっていただいた通り、これは特に、この京都兵庫の宿泊観光地で、高付加価値化に取り組まれている地域が多いというところと、人材不足で一定、部屋の稼働を抑えてらっしゃるというような影響で、全体的に1年間を通して、宿泊のリードタイムが長くなる、先の予約まで、在庫が少ないので、予約が入りやすいような状況にあったかなと思っています。で、結果的にそうすると、お宿さんも、先の予約が埋まりやすくなるので、単価を一定、設定しやすくなられたりというのもありまして、特に、中心部ですかね。都市部、京都、大阪、この辺は、京都市内大阪市内でいくと、インバウンドの影響で、大体、我々の日本人の単価も150%ぐらいに上がってきている中で、地方部の観光地の方でも、より価格上げやすいという状況にありましたので、比較的この1年間を通して、宿泊キャンペーンみたいなところは、

もうほとんどですね、OTAの中では行いがなかったような、1年間ではあったのですが、人泊、取り扱いともに、多くの観光地で良いような1年だったのではないかなと思っています。

<坂上会長>

ありがとうございます。時間の都合上、お一人おひとり伺いすることできませんので、是非、挙手をしていただいて、ありましたらお願いしたいと思いますが、副会長さんいかがでしょうか。何かありましたら。

<田中副会長>

私のところは、今、改修で、会長さんとも会議前にお話していたのですが、1,000円上げるのでも、宿泊単価を、すごい気後れする状況にあるのですが、昨日、DMOの取締役会がありまして、関西空港さんから来られている女性の方、データが、インバウンドで入ってこられる方の、全部データがわかるんですよね。瞬時に入ってきて、3日目ぐらいに、こっちに入ってくるような状況や、全部読み取れる中で、春と忙しい時期等の人数の数字があったのですが、まだまだ、やっぱり丹後の方は、宮津、天橋立に比べると少ないのですが、でも与謝でも3,000人とか、インバウンドの方。それが、繁忙期になると、倍ぐらいで、同じような京丹後も状況だったので、でも、その魅力あるものが、その美食アワードのことも含めて、まだまだ認知度というのが低いので、こっちに来ていただく可能性というか、交通の便も、早急にそこ、直行で走らせていただく部分であったり、さっきのデータというのが、全部、携帯のGPSで、レンタカーを借りられて、そして回られるコースが全部、説明があったのですが、可能性として、まだまだ、私的にはあると思うんです。食で、見る食べる。食もですが、そのストーリー性というか、ストーリーをどう、日本人のこう、なんでしたっけ、「天地山海にいきづく和の源流」というテーマがね、京都府の方のDMOにあるのですが、そこに、一番来られるのが台湾の方で、アジアがまだ多いのですが、他の方も目指してこられるのが、ここからは何だろう、日本の心というか、心根みたいなものも含めて、そういう歴史文化もあるので、どういう風に見せていくかというところが、すごく今後のテーマで可能性があるところかなと、私は。すいません、昨日の取締役会での、率直な感想を持たせていただきました。

<坂上会長>

ありがとうございます。他ございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。では、またお気づきございましたら、また後ほど、お話いただいても結構ですので、今日は、2つ議題がございますので、2つ目の方に入らせていただきます。議事の第4次京丹后市観光振興計画の進捗状況については、ここで止めさせていただきます。議事の(2)、浅茂川温泉静の里を活用した観光振興について、審議に入って参りたいと思います。

まず、資料4から7まで説明をいただいて、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。そのあと、資料8について審議するという流れを進めたいと思います。資料の方が大変多いのですが、今後、審議を進める上で判断資料にもなるかと思っておりますので、

少々、時間がかかりますが、ご了承のほどをお願いいたします。長いといっても、端的に、時間を使っただいてご説明をお願いいたします。よろしく申し上げます。

<大江観光振興課長>

はい、失礼いたします。それでは資料4をご覧ください。これは、前回、第1回目の全体会議で、3班に分かれてディスカッションしていただきました。それぞれの班のご意見をまとめました。非常に活発にいろんなご意見いただきましたので、それを1班、両面裏表ですね、2ページにまとめておりますので、大分どう言いましょうか、まとまった要約の形になっておりますし、あと、ご発言いただいた方で、複数のご意見でも同じテーマで発言なさった方とくっつけたりしておりますので、「これ、私の言ったものとちょっと違うな。」と思われることがあるかも知れませんが、できるだけ忠実に起こしたという風にご理解ください。時間の都合上、各班の上の太字の部分だけご紹介します。

1班です。

老朽化がひどいので、もう修繕するレベルじゃない。観光目的であれば、最低限、綺麗じゃないといけない。住民福祉であれば、もう少し規模の小さいもので、ただし、温泉に行ける移動支援ですね、こちらの方が重要じゃないかというご意見がありました。海水浴客のサーファーも温泉があることは絶対条件ではない。必ずしもいかないということでもございました。源泉が減ってるという中で、他の用途ですね、足湯等の他の用途で使ったらどうか。そして、集客力があるのは、野菜の販売、食事・足湯・イチゴ狩りなどの複合型で、子供が遊べるということが大きな条件じゃないかということでもございます。あとは、海のレジャーをしたらどうか、宿泊施設を誘致するというよりも、周辺の宿との連携で、相乗効果が生まれるような形の方がいいんじゃないかということでもございました。

続いて、3ページにいきまして、2班です。

市民の利用が、7対3で少ないというご報告させていただきましたが、少ないのであれば現状維持を考えないほうがいい。

今の老朽化の激しい施設のままなら、観光客もまた来たいと思わないということでもあります。地域の特徴をコンセプトにする通年観光の拠点にすべきだということの中で、7点ほど案が上がっておりました。ジオパーク。あるいは、全天候型人工サーフィンセンター。あるいは、浅茂川漁港を活用した海の体験。あるいは、景色を眺めてゆっくり時間が過ごせる場所。ランチ泊食分離なんかの対応できる食事処、特に地元食材をとということでもございます。地域特有のコンセプトと海鮮バーベキュー。長寿をコンセプトにした施設はどうか。そういったご意見でした。温泉は、市内には複数温泉施設があるということで、住民福祉を考えるのであれば、むしろその全施設、全民間も含めた温泉施設共通で使えるような、市民限定の特典制度を設けるといった形で、かえってその方が利用率が上がるのではないかというご意見。プールについては、やはり子供、スイミングということ、活用の策をちょっと考える必要があるのではないかということです。この施設、もし何か作るとした場合、住民がターゲットなのか、観光客がターゲットなのかということでもございます。むしろ、今の流れは、住民利用、住民運営といった施設に、観光客が集まる。市内でも魚屋さんで、市民がたくさん来られてるような魚屋さんには観光客も来られているということでもありましたので、そういったものがないのではない

かということでした。解体だけで、数億かかるということであれば、そのまま渡されても民間は困るのではないかということで、民間にどういった需要があるのか、ヒアリングなんかも必要ではないかというご意見でございました。

5 ページです。3 班です。

雨の日のプールだということであるならば、クアハウスがお隣にあるということですし、砂を落とすことが目的というならば、それは観光客とは言えないのではないかというご意見がありました。観光施設ならば、やはりそのアクティビティであったり、お食事であったり、そういったものが必要だということでございます。ターゲットは、市民か観光客か。観光客とするならば、国内なのかインバウンドなのか。ただプールの持つ教育的価値をどうするのかといったご意見。そこにあるもの、地域のストーリーが観光資源だと。漁港関係者も生業として、課題感を持っておられるという中で、100歳長寿といった京丹後ならではのコンテンツを武器に、漁港との活性化、あるいはSDGs、そういったものをかなう施設を作ったらどうか。魚も野菜も地元の人が集まるところに観光客は集まる。ゆがんだ野菜、虫だらけの野菜は最強コンテンツだと。源泉が減っているということは致命的だが、養殖、その他、用途を変えて活用はできるのではないかということです。合併して20年経って、6町同じものがすべて必要だという考え方は、もう見直す時期が来ているというご意見でございました。資料4は以上にしまして、資料5をご覧ください。

資料5です。これ、建設部の方で、高速道路が将来繋がるということで、休憩場を作ろうかどうしようかという調査業務を、建設部がやっています。そこに、観光の方も、参画をしまして一、緒にいろいろやっています。その中で、定性調査をしようということで、1つは事業者向け、1つは観光客向けです。資料5につきましては、観光事業者の宿泊施設ですね。お宿さんに対して、聞き取り調査を行った結果でございます。市内の宿泊5件のお宿でさせていただきました。約1時間ぐらいですかね。聞き取りをさせていただいたということです。

こちらに関しては、5施設の回答をまとめてございますので、ポイントだけかいつまんでいきますと、質問1で来訪手段。やはり車が圧倒的に多かったということですし、日本人、インバウンドの比率は、質問2でございますが、9対1でやはり日本人が多いということでした。

質問3、訪れるグループは、やはり家族が一番多いということでした。捲りまして、2ページですけれども、

質問5、リピーターは、何回ぐらい来られていますかと、レポートされていますかと、大体、1回から2回、夏に1回、冬に1回、1、2回という方が多いという回答が多かったです。

質問6、何を目的に、この宿にレポートしていますか、これ、皆さん食事、「食」ということで、ほとんど回答が一緒でした。

質問7、京丹後へ旅行される目的なのですが、ここでも「食」だという回答でございました。

質問8、どちらから来られますか、9割が京阪神ということでした。

少し飛びまして、次の3ページの一番上、質問11、宿泊日の前後の昼食場所として多いのはという質問で、天橋立であったり、舞鶴とれとれセンター、出石で、ここに書いてございますように、具体的な名称があがっておりました。

そのページの一番下、質問14、訪れる方が困ったり、不自由だと感じていることは、意見を聞きませんかということで、ちなみに、今回、休憩所という前提でご質問していますので、車で来られる方が多いという前提での質問になっておりますが、1つは早めに宿に到着しても、近くで食べる場所がない。あるいは、少し下に行って、列車利用の場合2次交通に問題がある。その下、雨天時に紹介する場所に困る。下から3行目ですが、高速が降雪時には渋滞が起きる。その下、電車の運休も、雪で発生するというので、1車線である縦貫道に対する声がたくさんあるということでございました。

捲りまして、4ページです。一番下にですね、質問17がございまして。実は、今回の調査では、この17番の質問が肝になっておりまして、高速道路が繋がったとして、京丹後が目的地でないとしても、わざわざ高速降りてでもやりたい施設の要件は、どんな要件ですかということで聞いています。子供を遊ばせる施設。あるいは、京丹後独自のものが買える、体験できる、見れる、食べられる。第1は、食、それと2、3時間過ごせるような場所。釣り関係のアトラクション。少し下に行きまして、味夢の里は、京都市内へビジネスで向かう人も立ち寄るが、京丹後は目的地なので、ビジネス客は、多分立ち寄らないだろうということでありました。新しい施設を作るのであれば、大変なので、今ある道の駅を活用したらどうかというようなご意見もございました。

ちょっとかいつまんだ説明ですが、資料5については以上です。

続きまして、資料6です。これ、観光客向けの調査でございまして、全部で6組の方にお聞きしています。1組1枚にまとめていますので、全部はご紹介しませんが、大体、上の方の質問5から15ぐらいまでは、どういうお客さんなのかということを取り上げた内容でございまして、これも一番最後の18番と19番、これが質問の肝になっております。これ、それぞれどんなご意見があったか。

質問18、京丹後が目的地でなくても、高速降りてでも立ち寄りしたい施設の要件は何ですか。新鮮魚介類・野菜果樹の販売。地元の野菜・お酒、市場があるところ。

質問19、目的地でない場合、降りてでも、立ち寄りたい距離はどれぐらいですかと。大体、5分から10分ぐらいだということでございます。

次のページ、2人目ですが、同じく質問18、19をご覧ください。新鮮魚介類、野菜果樹販売店、そこにしかないものがある。10分から15分間。

次の3ページですが、同じところですが、その場所でしか食せないものがある。5分以内、2kmぐらいということをおっしゃっております。

その次の方、4ページですけれども、一番下、美味しいものが食べられる、遊べる大きな施設。10kmぐらいならいけるかもということでした。

5ページですね。高速道路上にお土産を買うようなところが充実していなければ、本線を降りてでも立ち寄りと思うかもしれないという逆説的なご意見ですけれども、5分から10分ぐらいだろうということです。

最後のページ。野菜、海産物、地のもの、温泉、そういったもの。5分以内、1、2km以内ということで回答いただいています。

次に、最後になりますが、資料7でございまして。

今回、前回の会議の中で、目の前に浅野川漁港があるという中で、海の関係、漁業関係者、あるいは漁港との関係で、独自のものが出せないだろうかというご意見もありまして、我々ちょっと視察に行きまして参りました。

神奈川県三浦半島の先っちょに、三崎町という町がありまして、ご存じの方あると思いますが、三崎マグロで大変有名な、マグロが獲れる町ではないのですが、水揚げの基地だということで、有数の基地ということで有名な場所でございます。

全国で、初めて海業という言葉、この市長さんが提唱して、現在、全国で海業という言葉が、使われてるということです。今からご紹介する内容もですけど、それ以外に、また新たな富裕層をターゲットにした高級リゾート開発も、現在同時並行で進んでおります。

その下に京丹後との基礎データを比較してございます。人口が5万1,000人と、4万人と少し京丹後の方が多いということで、一般会計規模は370億と、180億で、約半分の町であります。令和元年の入り込みが、京丹後211万人、その3倍の614万人来られています。ただし、内訳は、もう9割が日帰り、554万人ということで、首都圏からの方が、日帰りで来られるということでございます。観光消費額は、元年度では70億と、130億ということで倍近く違います。ただし、令和4年の観光消費額を見ると、同じ数字、79億円ということで並んでいるということでございます。海水浴客数、17.9万人と51.3万人ということですし、宿泊施設の数180件と34件という、こういった基礎データの違いがございまして。

次のページです。その600万人の9割、500万人を超える方が年間来られますけれど、何を目的に来られているのかというのが、実はこの2ページ目でございます。

「うらり」という海の駅です。海業を提唱されたということで、その基幹的施設として、平成13年に開業されました。三崎港の特性を活かしつつ、観光業との連携でリゾート性を高めたということです。ゲストバス、外からボートで来られる方の駐留、係留施設があったり、あるいは産直センターがあったりということで、海を楽しむということを掲げておられます。県市が51%出資の、第3セクターで経営をなさっておられます。先ほど申し上げた、三浦市を訪れるほとんどの観光客はここに来られるということのようでございます。下にグラフがありますが、左側に発地場所、神奈川県と東京都で約82%ということで、近場からごっそり来られているということでございます。

最後のページですが、その「うらり」では、どんな事業やっているのかという部分で、写真をのせています。あと数字が、塗りつぶしのマルの方が、年商100万円ですね。輪郭のマルの方が、利用者数ということで、この資料に関しては、公表されていないということですので、この会議終了後、数字のないものと差し替えをさせていただきますが、一番大きなものは魚館でして、6億4,600万、124万人。マグロがたくさん並んでおりました。そして野菜館、1億3,100万、入り込みは、魚館に含まれているということですし、その他にも水中観光船、目の前に城ヶ島という島があるのですが、そこへ渡ると1,000円。あるいはレンタルボート、これ釣りですね。釣りをされる方に貸し出しをしている。あるいはレンタサイクル。あるいはゲストバス。もろもろございまして、周辺の飲食店の反対があったということで、レストランは実はないということでございます。バーベキューができるテラスがありますので、バーベキューの機材をレンタルで貸し出して、食材もワンセットいくらみたいな形で、地の食材を提供されています。もろもろ事業をやる中で、全体で約1,000万円ぐらいの黒字だということをおっしゃっておられました。

最後のページですけれども、これは三浦市ではありませんが、全国の事例ということで水産庁が進めている海業の取組が、いろんな各所で行われていますよということを、地図に落としております。

すいません。駆け足になりますけれども、説明は以上でございます。

<坂上会長>

ありがとうございます。2つ目のテーマについて、前回の皆さんのグループディスカッションの資料のまとめ、それから宿泊関係の方々の今回の施設に対するイメージみたいなものと、一般観光客に対してのサンプルのアンケート調査で、今ご報告いただきました類似事例の報告ということで、静の里の活用について、ご質問ご意見等を進めて参りたいと思います。

どなたでも結構ですので、是非、ご意見ありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。どうぞ。

<伊豆田委員>

はい。では沈黙を破るということで、アクションプロジェクトにもありましたけれども、浜買いの場所を結構聞かれます。獲れたての、なんか「漁業のところは競りがあるんでしょ。それって見に行けるんですか」とか、「新鮮な、そこで獲れたものを買えるのですか」といった時に、伊根のところとか、ちょっと離れていて。それは、先ほどもカニとおっしゃっていましたが、やっぱり資源として、イカを推すなら、その旬のイカというもので、こちらに来ると、季節によってイカが違くと。そういったことを、普通にお住まいの方が語られるみたいなこともあるので、浜買いの場所を増やすという意味では、こういう海の駅プロジェクトになると、すごく夢が広がるなと思いました。感想です。

<坂上会長>

ありがとうございます。浅野川漁港での浜買いは、可能性はいかがでしょうか。

<大江観光振興課長>

現状、今日の段階でというと、それを今から臨時検討委員さん、海関係の方々を招いて、そういう議論をしていきたいということが趣旨ですので、現状、できないということではありますが、京丹後で近いと言えば、間人の荷捌き所。あるいは、綺麗な広い競り場があって、それを上から見下ろせるような形になっていますので、直接そこで買うわけにはいかないのですけれど、仲買さんとも話しておいてですね、あの魚が欲しいというようなことは、ひょっとしたら可能なのかもわかりません。浅茂川に関しては、今からそれを議論したいと思っています。

<坂上会長>

検討は、進める余地はある。

<大江観光振興課長>

あると思っています。

<坂上会長>

もしくは、中間の人達に言えば、買える可能性は出てくる。

<大江観光振興課長>

おそらく、個人が直は、多分難しいと思うのですよね。だから、やはりそういう方々に、間に入ってもらうようなスキームができれば、可能かなという気はしてます。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。今後、検討して可能性を追求するというお返事だと思います。他はいかがでしょうか。はいどうぞ。

<味田委員>

はい、ありがとうございます。前回、グループごとに意見を出させてもらったので、温泉については、もう同じ意見になるのかなと思うのですが、私は、その福祉のところと観光と、目的が2つある施設というのは、とても使いにくいなという風を感じています。この会議では、何が着地点なのか、ちょっとわかっていなくて、これからその休憩所を作りますと。浅茂川温泉の場所を休憩所にする案はどうだろうか。するのであれば何がいるのだろうかというようなことで、意見を言わしてもらったらいいのか、ちょっとその辺りが、どこが着地の会議なのかがわかりにくいです。

<坂上会長>

まず、フレームをもう一度確認をお願いします。

<大江観光振興課長>

我々事務局として、こういう答えに持っていこうということは、実は持っていませんので、観光立市推進会議として、そのあたり、今、味田さんの方からあった意見が、議論の中で、段々段々輪郭が固まっていっただけだと思っておりますが、とはいえですね、やはり観光立市推進会議でありますので、我々は、観光を進める、京丹後の観光力を上げる、京丹後自体が、お客さんと呼べる力をもっともっとならした時に、どういう機能が必要なのか。たまたま浅茂川という温泉が、現状では、もう修理もなかなか及ばないような状況になっているので、そこを使って、そういうことが何かできないのだろうか。これ、やっぱり柱になるかと思えます。

ただ一方で、住民福祉、あるいは子供さんたちのプールという問題もありますので、立市の会議の立場として、どこまでそこに言及していただくかは、この後、また検討部会もありますし、例えば、方針とか望ましいといった考え方を、そこに落としていただくのか、全く落とさないのか、その辺も含めて、我々として、こうして欲しいというもの、実はありませんので、皆様のご意見をお聞きしたい。

でも、柱は、観光としてどうやるべきかということ、念頭に置いていただきたいということです。回答になっていますかね。

<坂上会長>

ちょっと幅が広いようですけど、観光的視点で、この場所をどう評価できるのかと、どういう期待をされるのかということをおっしゃっていただいたらいいという理解でよろしいでしょうかね。もしそれについて、あればお願いします。

<味田委員>

今、高速道路は、もうどの辺りに、この近くのインターができるのかが決まっていますかということと、そこから温泉までは、何kmぐらい離れている立地になってくるのかということが、もしわかっていたら教えて欲しいです。

<坂上会長>

新しい最寄のインターチェンジの場所は、どの辺りになるのかということがわかればということですが、公表できますでしょうか。

<大江観光振興課長>

つい先だって、ルート案がいくつか出てきまして、おそらく網野駅のちょっと南付近を通過するのではないかと、どのルートを選んでも、その辺りを通過するのではないかとというルートが出ました。休憩所は、京丹後のエリア内に何箇所置くのか、まだこれ決まっていますので、一説には、2箇所違うか、3箇所違うかというような意見も出ています。

ただこれも、観光立市の皆さんで、是非、提言といいますかね、考え方としてご議論いただきたいのは、インターがないほうがいいのか。ないと困るのですけれど、あった方がいいのか、あるのであれば、この辺にあるのだろうかという風に考えた時に、例えば、これ例えばの話ですが、網野駅付近にもしあるとすれば、浅茂川温泉までは3kmちょっとぐらいです。移動の時間として、5、6分ぐらいということになっています。

<坂上会長>

だそうです。先ほどのアンケートでいうと、条件が満たされていいような範囲にあるという理解でよろしいですかね。

<大江観光振興課長>

客観的に、そうそういう距離感であります。

<坂上会長>

はい。それとついでなんで、高速道路にサービスエリアとか、物販とかいうものが、できるのかどうかも、今まだ定かではないとおっしゃったのですけれど、その辺はいかがでしょうか。

<大江観光振興課長>

それを、先ほどの建設部が進めておられる調査業務ですね、これコンサルが入ってやっていますけれども、全国の事例なんかを集めて、あるいはちょっとまだ定かではないですが、市民の皆さんにも、京都府さんとも一緒になって市民の皆さんの意見を問うよ

うな場面も今から作っていくようですので、その中で、上に作るのか、下に作るのか。上に作るのであれば、どういう機能を持たすのか、ということも多分何となく形になっていくと思います。

<坂上会長>

今日も、京都から京都縦貫道路で来たのですけれど、味夢の里しかありませんので、このまま京丹後に何もなければ、消費する場所、買い物していただく場所が兵庫県に移ってしまいそうな気がするので、全体を通すと、何かサービスエリア、ショッピングエリアは必要ではないかと思うのですけれど、できてしまうと、降りてから買うものなくなる可能性もあって、どちらがどうなのかなという気にはなります。ちょっとご質問に加えて、あわせて質問させていただきました。他いかがでしょうか。

基本的には、前回のご意見が、観光拠点を作るということが、基本的な方針として皆さんも理解できたようには思うのですけれど、その内容についてですよね。どういう内容がいいのかというので、いくつか選択肢が出てきているかと思うのですが、いかがでしょうか。

前は、活発に小テーブルだのご意見をさせていただいたのですが、大きくなるとなかなか雰囲気と言いにそうなのですけれど。同じ方ばかりで恐縮ですが、前田さん、類似的にはどんな方向が望ましい、嬉しいでしょうか。出来るだけ皆さんこれでということで、こんなものが欲しいなというご意見で結構かと思しますので、こんなものが望ましいなというものがあれば、是非おっしゃっていただければと思います。前田さん、全国的にはどんな感じでしょう。

<前田委員>

ありがとうございます。まずは、やはり京丹後という場所柄が、横に天橋立があり、城崎があり、いわゆる宿泊滞在拠点というところを、多分地域として、観光として目指されていくのだろうなというところが、まずベースにあるかなと思っていますので、その上で、これ全然別の地域の調査で、1回行った時に、関西圏の海鮮が美味しいと思うイメージを聞いた時に、1番目が、明石、白浜、淡路の順で、明石も白浜も結構わかりやすい、とれとれ市場とか、あぁいったシンボリックな場所があるのであがってきます。淡路は逆に、海に囲まれていたり、いろいろな飲食店であったり、宿泊施設で、季節毎の魚が出たりというような形の取組をされてらっしゃるところもありますので、もし可能なのであれば、その時その場所でしか食べれない、ここでしか得れないものとなると、やはり、我々の社内で思っているところだと、やっぱり魚が1番、海鮮系がそこに強いかなと思いますので、海鮮関係の拠点として整備していくと、観光という観点では、地域のブランド形成にもなり得るのではないかなという風には、今、資料を見ながら感じたところです。

<坂上会長>

ありがとうございます。海鮮系に特化をするというのが常套ではないかというご意見です。はいどうぞ。

<濱口委員>

はい、丹工の濱口と申します。私ですね、2年ほど島根県の端っこの吉賀町というところの役場の中にいまして、山口県の海の方ですね、あの辺りから益田市とか、出雲市の当たりの道の駅とかを、全部ぐるっと1周回ったのですが、山口県は、道の駅発祥の地ということがありまして、なのですごく道の駅が充実しています。

道の駅の、日本海側の道の駅には、1つのところは、もう漁港だったところが、道の駅になっていて、そこは、道の駅が、半分卸みたいな感じになっていまして、朝一で、瀬戸内側から車で来て、そこの道の駅のショップで、それを仕入れて帰るというような、まるまるの魚が大量に置いてあるみたいな、そんな場所もあります。

それと、一番有名なところでは長門という道の駅のところは、バーベキューができて、観光船がつくような場所と、あとは少し離れたところに、加工施設があつてみたいな場所で、そこが目的地になる。

全部こういう大体それが、道の駅と道の駅の間が、1時間ぐらいで、ずっと日本海側が周れるのですけれども、それが楽しくて行かれる方がすごく多いエリアになっているので、特に、冬場はあの辺りは、本当に雪が深いので、人が少なくはなる。逆に少なくなるエリアなのですが、それでもやっぱり魚が欲しいということで集まってくる方がたくさんいるエリアだったので、ああいうところもぜひ見に行ってくださいと、なんか参考になるのかなと思いました。

<坂上会長>

ありがとうございます。道の駅のような機能がいいんじゃないかと。すいません。どうぞ。

<今井委員>

NPO法人まちづくりサポートセンターの今井です。私は、丹後の道の駅の情報センターにいるのですけれども、そこには大体、情報センターに居ますと、昼食、ランチを食べるところがない。お魚を買うところがない。どこかありませんかという質問が、すごく多いです。だから、同じような道の駅ではなくて、お魚が買えます。ランチができます。お魚に特化したランチができますよというような施設があれば、そこを紹介することができるのですけれど。今は、本当に紹介する場所がないです。道の駅に食堂はありますけれど、そこに来た方が、ランチどこかありませんかと聞いてるということは、この道の駅は、ランチは駄目ということだと思ふのです。だから、紹介できるような、場所を作ってください方が良いかなと思いますね。あそこに行ったら、こういうランチが食べれますよというような紹介ができれば一番良いかなと思います。

<坂上会長>

隠れたところはあるのでしょうか、小さな、おそらく観光客がどうぞといえる場所が、しっかりとした名称がないというか、当然あつてしかるべき機能であろうかなと思いますが、はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。上田さんどうぞ。

<上田委員>

すいません。美味しいものはそっちも賛成ですし、ただ、子供が遊べる場所というのも非常に少ないのですよね、京丹後市は。子供も楽しめて、大人も楽しめて、美味しいものも食べられて、漁港があるので、近くで簡単に、親子で魚釣りができるようなところがあったりとか、それからせっかく温泉があるので、足湯ね。浸かって、ちょっとしたカフェがあって、美味しいもの食べたり、そういう魚のおいしいランチを食べたりとか、そういう大人も子供も楽しめるような、旅行もちょっと、大いに浅茂川漁港がありますので、そういう魚関係も利用したものができたら良いなという風に思っています。

<坂上会長>

子供も楽しめる、食の拠点をと。段々、丹後王国に近くなってきたようなイメージもあるのですがいかがでしょうか。

<田矢委員>

すいません。お聞きしてて、うちがもっと頑張らないといけないのだなという風に思いました。でも、なんででしょうね。ここで考えるべきところということは、やっぱり観光なので、域外からどれだけ人を呼び込んでくるかということを考えないといけないのではないかなと思うのですね。そうした時に、例えば、その浅茂川温泉の施設にしても、ここで考えるのは、観光としてだったら、どういうことをしたらいいかという風に考えていかないといけないので、だからそこが、私、前回オンラインで入ったので、はっきりとしていなかったところもあるのですけれども、これ、浅茂川の施設については、こういう会議以外に、市役所の別の部署とかでも考えてらっしゃるということなのですかね。

<坂上会長>

はい、事務局どうぞ。

<大江観光振興課長>

今のところはないですね。この会議体だけですから。

<田矢委員>

観光以外の目的となることもあり得るということですよ。

<大江観光振興課長>

結果として、その可能性はゼロではありませんが、まずはここでご議論いただいて、それより先の話かなと思いますね。例えば、この会議体で、もう観光で使い道がないということに、もしなればですね、そういう動きになるかもわかりません。

<田矢委員>

なので、観光という観点で、この場では考えていきたいなと私は思いますし、そういうことでは、浅茂川の施設そのものは、やっぱり、ジオパークだったり、海の紹介で

あつたり、食べるものにしてもそうですけれど、海鮮が食べられる場所であつたりということが、メインになってくるのかなという気がしています。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。おそらく、高速道路ができて、せっかく作るのであれば、新しさを出さないといけないと思うので、現代の、需要、ニーズにどう新しい京丹後を加えていけるのかと。同じような大きなカニの看板出して、集めても仕方がないと思うので、何か違うタイプのを新しく作って行って、その新しさを機能で示すのか、景色で示すのか、デザインで示すのか、何かの新しさということが必要になってくるのではないかなという風には思いますが、いずれにしても、食というのは外せない大きな機能であるという皆さんのご意見かと思うのですが、他、補足含めてご意見ありましたら、是非お願いしたいと思います。はい。どうぞ。

<濱口委員>

これはちょっと違う角度からのジャストアイデアなのですが、実際、そのプールを使われる子供の方とかがたくさんいるというお話も、アンケートを見て、それで実際必要だろうと思う部分もあるんですね。なので、例えば、オガールが岩手県にあるのですが、あそこは、国際大会レベルの人達が、練習ができるし、試合ができる。バレーコートみたいなものを作って、そういうずっとプロになっているような人たちが練習する環境で、人が集まっている状態で、いわゆる回転率を上げて行って、というような施設なのですが、そういうような視点を入れるとしたら、例えば、プールを、逆に大人用とかプロ仕様のプールを作って、それで、例えば、オリンピックに行く人達がそこで練習するであるとか、実業団がそこを使うとか、みたいなところまで掘り下げていけば、それで維持費をまわしながら、1つ、人の集まりというものを作るみたいなこともできるかもしれないので、何かこう、何かの特化することさえちゃんとできれば、人は集まるのだと思うので、あまりこう、魚、魚と言っても、実際、正直なところ、そこまでの種類がこの辺でそろうとは限らないので。なので、そういう意味では、あんまりその魚だけということに絞って議論していくと、何か違うところにいってしまいそうな気がするので、どこに特化させるのかということのアイデアを、もう少し広げるのも良いのかなとは思いました。

<坂上会長>

ありがとうございます。平均増を目指すのではなくて、特徴的なものを何にするのかということが重要だと。はいどうぞ。

<伊豆田委員>

今のご意見に乗っかってお話すると、魚と体験とか、そういう風に、今、与えられたものを受けるのではなくて、やっぱり、その周り、ジオパークが回遊できるとか、釣ったものが食べられるとか、宮崎のフェニックスのところの道の駅みたいなところは、本当にもう、水族館みたいにサザエとかがあるんですね。魚とか。それ獲って、バーベキューのところ食べる。もうそれをやるのが楽しくて、値段が高いとか安いとか、後

でしかわからないけれど、利用者がたくさんいるというような背景もあるので、体験をプラスした、何かお楽しみを作る海の駅とかいうのは面白いかなと思いました。

<坂上会長>

是非、体験を入れた方がいいというご意見です。他いかがでしょうか。

昨日ふと思ったのですが、バラ寿司を作る体験とか、ぼた餅を作る体験とか、こんなのあったら良いかなと思いました。四国に行ったらうどん道場ってあるのですけれど、同じような、なんか誰でも出来そうで、ここにしかないものみたいながあるとすごく良いかなと思いました。

<伊豆田委員>

バラ寿司は、私も東京の方とか来たら買って、あげるのですけれど、地元の方にそれを言うと、ばら寿司にものすごくヒットしないのです。思うじゃないですか。バラ寿司やったら良いですよ。バラ寿司なんか、人に出すものじゃないと、結構の方が言われるのですけれど、お住まいの方はどうですか。

<坂上会長>

はい。是非どうぞ。一言ある方いらっしゃると思うのですが。代表で。

<丸田委員>

琴引浜では、バラ寿司で売っていますけれどみたいな感じで。琴引浜のおばさん達は、自分のところのバラ寿司が一番美味しいと言っているのです。むしろ堂々と作りますし、先ほど体験の話で、バラ寿司体験を言われてて、トッピング体験とか、簡単に出来ますので。時間調整は簡単にできますし。

私、もう1つ思うのは、冬の地海苔の、海苔すき体験をして欲しいなと思うのです。あれ、なかなか結構手間がかかっている、風物詩。なんか、紙すきみたいなことをして、干すやつが風物詩。もうほとんど今の年配の方が、琴引浜でも取りに行かなくなって、段々となくなってきているので、是非、こういう浅茂川の海の見えるところで、多分、冷凍しておけばできるのではないかなと思って。ストックさえしておけば、ホンマに紙すきみたいなことで、何か叩いたりとか。え、冷凍したらあかん。そうなんですか。なんか冬季限定でも、海苔すいて、叩いてすいて干すみたいなああいう体験が、是非していただけないかなと思ったりとか。あと、やっぱりアクティビティ、シーカヤックとか久美浜とかにはありますけれども、段々こっちの取り組んでいるところが、やっぱり撤退されたりとかしているのです。是非、浅茂川の漁港周辺で、シーカヤックとか体験ができる、ジオパークも、本当に浅茂川の漁港の、もうちょっと西の方にもポイントがありまして。なので、ジオパークでも広く語れるのではないかなと思います。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。阪急百貨店の地下1階のデパ地下で、とり松さんが月1回売っておられますが、列なしていますから。知名度は結構あると思うのですよね。何かそういう地元しか、特徴出せないものを体験できるというのは、すごく価値があるかなと思います。他いかがでしょうか。はいどうぞ。

<中川委員>

ちょっと農業の立場から。皆さん先ほど体験とよく言われているので。農業も収穫体験とか織り交ぜてもらったらいいかなと思ったりしますね。なんでしょね。一般的かもわからないですけど、丹後はやっぱり結構果物ですかね。果樹は結構有名なので、僕も今年から、もうちょっと京都市内の方に、売っていかみたい。それなかなか距離があるんですけど、直売所に、今ちょっと営業をかけていまして、複数の直売所に声をかけても、すごい丹後の野菜が欲しいという。物流がネックになると言われていても、本来ならば、その業者さんが、僕らが足運んで、丹後の野菜や果物を仕入れなければあかんということをおっしゃられたので、欲しがっていることは、よく話を聞きますので。やっぱり京都府って、すごく縦に長いので。市内の中南部と、北部では全然季節感が違うので、南部じゃなくて、北部にあるという感じなので、逆に、その向こうの直売所の方でも、地元の農家さんと、商品がバッティングしないので、そのお店とか、直売所、売り場を充実するという点においても、是非とも、丹後のものが欲しいみたいな。僕の考えと言うのが、買われるお客さんも、やっぱり市場から仕入れたものよりは、袋に入っても、やっぱり生産者の名前が書いてあると、すごく飛ぶようによく売れると言われているので、買いに来るお客さんもなんか誰々という。そこに、京丹後と入っていれば、京丹後から持ってきているのみたいに、認知度があがっていくと、1回、京丹後に遊びに行ってみようかなみたいな。もちろん、来られたお客さんには、何かしらの観光サービスをやりながら、なおかつ、また違う、さっきの駅のポスターもあるんですけど、僕らなんかでも商品で、京丹後がアピールできたらなと考えています。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。農産品は欠かせない1つのアイテムかなと思います。他いかがでしょうか。是非、ご発言のない方。湊地区はいかがですか。

<和田委員>

やっぱり海が見える、その立地を活かした施設を目指すべきかなと思っています。

先ほど、魚と体験とか、いろんなご意見が出て、良い意見がでたのですが、本当にお客さんが、今何を求めておられるのかなということもちょっと考えたりもします。宿泊施設から帰られて、立ち寄り所をとにかく探されるので、もう限られてるなというのが、実際のところで、なかなか紹介しきれないところはあるのですが、子供さんと遊ぶというのが、先ほどあったように、丹後王国、現状はそうかもしれませんが、もっとう、海の近くで遊べるようなところというものが必要かなという風に思っています。

あとは、道の駅的ということであれば、魚ばかりではなくて、野菜とか果物とかというのが、そこに行けば、求められるというのが、小天橋だったら、サンカイカンに行けば、フルーツとか野菜、野菜農家が持っていられるから、宿泊施設の仕入れも、ない時は、そこに行けば手に入るとかというのはあるので、そういうものも、結構必要かなと思います。

例えば、鳥取空港の海側に賀露港とかありますけれど、あそこなんか、もう海の近くだけれど、その野菜が豊富で、しかも安い。僕らも気軽に行くことができるのですが、魚

もあり、野菜もあるという。しかも、すごい子供たちが遊べる広場もあるという。すごく、いつも賑やかな場所なので、そういうところも、参考にして何かやれるかなということも思っています。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。まだご発言いただいていない秋田さんいかがでしょうか。

<秋田委員>

すいません、丹後海陸交通の秋田です。全部お話を聞いて、もう全部したいぐらいの気になっているのですが、私が観光の方からお話させてもらおうと、やっぱり大型バスとか、そういう部分で団体様を、マイカーも多いとは、アンケートとかを見させていただいたのですが、やっぱり団体様が、大型バスで何台も入ってきたら、もうそこで1つ、30名、40名と、大きな団体が入ってくるなと思うのです。そうすると、今度は、やっぱり駐車場が大きな視点かなと思うので、私よく添乗員とか、観光の方のことでしておりますので、その中でやはり、大型バスは止められるか、それからマイカーでも入っていけるかというところ。まずそこで、旅行の1つの目安も入ります。

お客様のご意見、私からの目線から言うと、やっぱり何かこう体験。それも楽しいですし、お土産。やっぱりそこは、せっかくそこまで来たら、何でもそろっているお土産屋さん、大きなところはすごく、そこで、もう30分で足りない。1時間近くで、もうそれだけでも1つの観光の目的ができるぐらいなところは、結構喜ばれます。

というところで、旅行の団体でいうと、やっぱり団体食事も必要になってきて、そこで、京丹後市の中を見ていると、やっぱり、団体食事ができるところがないなということも、1つ思います。やっぱり、天橋立の方でいくと、大丸さんとかいろいろと観光施設の中で、お土産屋さんがやっている食事というところがありますが、いざ大きな団体数を取ろうと思った時に、1台までの、ホテルさん旅館さんは、それぞれありますが、2,000円、3,000円ぐらいの、カニというわけではなく、ちょっと海鮮丼でも、皆さんランチを食べたいといった時に探す場所というところ、やっぱり、京丹後市にはないなというところは思いますので、そこも含めて、今の道の駅、それからあと温泉で言うと、やっぱり足湯もやはり観光地に行くところあります。そこには、必ずお子様も皆さん、ゆっくり楽しんで、なおかつ、こちらは、海も見えるところで、良い立地でもあるので、本当に全部が総合施設というものは、せっかく、海の近くの立地で温泉もあり、そしてなおかつ、今の海のもの、それからお野菜の道の駅もそうですし、それからお酒もありますし、フルーツトレイルも久美浜の方でもされている。私も楽しく、寄ったら食べることもありますし。やっぱりそういうものも含めて、フルーツの食べ放題だったり、何かこう道の駅に行った時に、フルーツ食べ放題を1つ。それが、2時ごろぐらいに入れば、お食事の後にみたい。そういう部分で、お客様が喜んでいうツアーも、皆さん、女性の方は楽しんでおられますので。そういう団体様が受けれる施設というものを、大きいものを造ればいいなと思います。駐車場ですね。

<坂上会長>

はい。ありがとうございます。非常に現実的なお話。今、浅茂川温泉は、団体向けの大型観光バスの出入りは、どんな感じでしょう。

<大江観光振興課長>

もうできないです。今の状態では。レイアウトを変えないと。路線バスも、一時は上の玄関まで上がっていましたが、今は上がっていませんし、あそこで三転することもちよっと難儀するようなスペースしかないので。

<坂上会長>

整備をすれば可能ですか。厳しいです。

<大江観光振興課長>

いえ、現在、建物としてはプール棟と旧温泉と、今使っていませんけれど。それと新温泉と3つありますから。仮に、全部なくせば結構な広さになりますのでね。そういう部分で、駐車場を造るスペースはできてくると思います。

<坂上会長>

どれぐらいの大型バスが止まったらいいですか。

<秋田委員>

10台は必要でしょうね。やっぱり、2台、3台連なってぐらい来たら、やっぱりその分、勢いよくお客様がどんどん入られると思ひまして。大手の旅行会社さん、関西圏でも、たくさんそれをリピートして、月に何本立てとか、やっぱりそういうのも作りやすいかなと思います。

<大江観光振興課長>

地形がですね、こっちから入って通り抜けが、今の状態はできませんけれど、そういう構造につくり得る地形なのです。だから、入って三転して出て行くとなると、ちょっとしんどいかもかもしれませんけれど、通り抜けの途中に縦列で、2台ぐらいは止めるとか、例えば、そういうことは可能かなという気がします。

<坂上会長>

具体的に、それは検討をしていけたらいいかなと思います。貴重なご意見ありがとうございます。夕日ヶ浦温泉さん、是非お願いします。

<浅田委員>

すいません。夕日ヶ浦温泉から来ています。浅田と申します。前回、ちょっと会議に出席できなくて、今改めてこう、いろんな静の里のことにしてお聞きしております。自分なりにいろいろ皆様のご意見を聞いたりとかして、やはり観光に特化させていくべき場所ではないのかなと自分は考えております。

先ほど言っていたように、本当に子供が遊べるような場所だったら、目の前に漁港があります。釣り堀があつたり、なんかそういう体験。先ほど言った浜買い、いろんな体験を持っていくことは可能だと思いますし、例えば、漁師さんと、あと農家さんとかでも、例えば、ビニールハウスをどっかで建てて、イチゴ狩りができるとか、そういう施設も1つ、観光と、農業と、漁業の繋がりが持てて、面白いのではないかなと思ったりもします。

そうですね。先ほど言いましたように、やっぱり漁業関連であると、やはりこれからの漁業関係者とのディスカッションの中、本当にどんなことができて、これからどんな方に向かっていけるかをしっかり議論した上で、また、どんどんどんどん肉付けして、いい話になったらいいかなと思っております。以上です。

<坂上会長>

ありがとうございます。他、ご意見いただいてない方、松本さん、いかがでしょうか。

<松本委員>

すいません、失礼します。旅行なんかで私どもが、行く時に、観光地、目的地もそうですけれども、そこまでに行く過程で、ある程度、道の駅に寄って楽しんで、その目的地に行くというような方が、特に女性の方は多いと思うので、もし、できれば、温泉を利用して、そこに道の駅で、地元の野菜、魚なんかも置けるような施設、また、子供が遊べるような施設が、もし造れるとしたら、最高なことだと思いますし、私たち旅館としても、帰りどこに寄ったらいいのかというようなことで、ご案内できますし、京丹後市に半日ぐらいは滞在できるような感じの施設ができれば最高だなと思います。以上です。

<坂上会長>

ありがとうございます。松尾さん、どうぞ。

<松尾委員>

前回と今日は、うって変わって、具体的な話が出ていまして。その中で、私は以前に漁協の傘下で、網野支所という組合があるのですけれども、そのの理事もしていましたのですが、その頃から実は、漁協の周辺に、先ほど話がありましたけれど、大きな土地があります。これは漁港の関係なので、国なのか府なのか。漁協、いわゆる漁民のものではないのですけれども、そういうものを利用した施設が可能だと思います。

それから、今言った組合が持っている土地も実はありまして、八丁浜シーサイドパークの一番端の方に、土地があります。この利用については、平成10年ごろから、いろいろ議論がありまして、その中で、しばらくして合併になってしまったので、頓挫してしまったということがあって、市が合併したということで、頓挫してしまったり。それから組合自体が、大きく京都府漁協になっていますので、かなり地方色は出せない状況になっているので、そういう、いわゆる漁協漁民のニーズやら、今の状況をしっかり掴んだ上でやっていければ、皆さん方が、今瑠々出していただきましたものについても、かなり大きな青写真が書けると違うかなという風に思います。

もう1つ言うと、ここに参加した方たち全員が、そういうことを踏まえて、1回青写真を、いろんな状況を掴んで、いわゆる空想でもいいので、そういうものを出して、そしてそれから、絞っていった具体的なしていくという方法も1つあるかな、なんてことを、今聞かせていただいて考えておりました。

あとで、検討部会の話もあると思うのですが、その中に具体的に、網野の支所長だとか、漁師さんの理事さんだとかいうのが入っておられますので、そういう中で、じっくり漁民の立場に立ったやり方で、漁民が、実はもう高齢化で、どこの業務もそうなのですが、若者が、もう今にも潰れそうになっているということではありませんので、そういう状況なので、そういうことも踏まえながら、やっぱりやっていっていただくことが、かなりまとめた施策にならないかなという風に思って、聞かせてもらっておりました。以上です。

<坂上会長>

ありがとうございます。静の里に限らず、漁港の未利用地もあると。それも含めて、検討していった方がいいのではないかというご意見でございます。お隣の、すみません、ご発言ください。

<鎌田委員>

アミティ丹後です。前回、欠席しておりました、ちょっとその時の議論が見えていないのですが、ここに、いろいろ議論いただいた資料なんかを拝見していると、やっぱり一番大事なのは、地域の方に愛される施設ではないと、そもそもが、また同じ道を辿るのではないかという風に思っています。

住民の方や旅館の方々が、ここを積極的に案内できるような、そんな施設になればなという風に思っています。

先ほどありましたように、八丁浜とか漁港とかありますので、そういうものをもうちょっとエリア的に広く、ひょっとしたらアミティ丹後とかも入るのかもしれないのですが、エリア的にもうちょっと広げて、いろんな見せ方をするというようなことも考えていったらどうかと。1つだけのところで、何かパッと盛り上がるだけでなく、エリア全体が盛り上がらないと、良い展開にならないのではないかなと。紹介、お互いにし合うような関係になるには、そういうものが、そういう関係があるのかなという風に少し思っています。以上です。

<坂上会長>

ありがとうございます。周辺との連携プレーなんだよというご意見かなと思います。他、はいどうぞ。

<日達委員>

では最後に、皆さんそれぞれすばらしい意見で、納得させて聞かせていただいているのですが、静の里に限っては、もう何十年、創意工夫をされて、いろいろご苦労されても、なかなか厳しい状態なので、1回、そういう温泉だとか、プールとかいうのは、チャラにして考えてもいいのではないのかなと思いますし、そんな大きなすばらしい施設が本当に必要なのだろうか。素晴らしい施設や、美味しいものは多分、全国どこでも

きっとあると思います。京丹後しかないものもあるのでしょうか、最後は、やっぱり、もうこれからは、前も言ったのですけれど、目に見えないものというか、人だったり、感じたり、そこに来てゆっくりするとか、うまく言えないのですけれど、そういう形あるもの、プラス、目に見えないもの、人、澤さんだったっけ、辞めなるの。あそこに、人がいらっしゃるからコーヒー飲みに行こうとか、そういう人材というの、皆さんそれぞれいろんなネットワークでご存じの方もいらっしゃると思うでしょうし、アミティ丹後の理事がおっしゃったように、いろんな施設、周辺と連携して行って、京丹後にしかない、うまく言えないのですけれど、目に見えない心を感じるものプラス、あとは食とか、そういうものはついてくるものだと思うし、本当にそんな新しい素晴らしい施設が必要なのかなと。

私は、山の中で民泊をしているので、やっぱり皆さん求めるものがちょっと違ってきているというか、ゆっくりした時間を過ごすだとか、お母さんの顔を見て、ちょっとゆっくりご飯を食べに来たとか、そういうものプラスアルファでも、丹後にはそれがあると思うし、人もあるし、自然も、五感、感じるものが、例えば、砂浜なんか歩くと、足が邪気が取れて、何かエネルギーをもらったとか。山だったらエネルギー、海だったら浄化だとか、いろんな言葉を織り交ぜながら、お客さんにまた来たいとか、またあの人の話を聞きたいとかいうものも、とても重要になってくるのではないのかなと思います。こんな答えおかしいですか。

<坂上会長>

最も真っ当というか、基本的なことであろうかなと思います。ありがとうございます。他ございませんでしょうか。はい。どうぞ。

<松尾委員>

前回の時に、この検討委員会のロードマップというものが示されたのですが、その中で市民とのヒアリングというのが、あったのですけれど、先ほど来、ちょっと話していますように、そこの中に、いわゆる今から将来を見据えて生きていく子供たちの存在がないのです。だから、子供達にもやっぱり、この町がどういう町であって欲しいとか、僕たちが大人になるのにどうしたら、この町を、市を、利用できるとか、どう生きていったらいいかという、そういうことを聞かせていただくというか、そういうものがあれば、もしもあればですけども、なければ誰か示さなあかんわけですが、そういうところが、ちょっと欠けているので、例えば、あそこに網野高校がありますし、中学校やら、小学校も2つあったりしますので、そういう人達のやっぱり考えもしっかり取り入れるような、取り入れたような施設ができればいいかなという風に思います。

<坂上会長>

ありがとうございます。ロードマップで市民のご意見を聞くという中に、そういったことはいかがでしょうか。

<大江観光振興課長>

この後の検討部会で、その議論をまたさせてもらおうと思っていましたけれど、そういう場に招くというよりは、むしろ、今おっしゃっていただいたような方々のもとに行

って、ヒアリングをして意見をまとめてくるという作業をしたいなというなことを考えていますので、グループの1つに、今のアイデアも検討すべきかなと思っています。

<坂上会長>

ありがとうございました。今日もすいません、時間が参りましたので、皆様方のご意見を簡単に、私なりにまとめさせていただきますと、総合的な観光拠点が必要ではないかというご意見であったかと思えます。ただし、今ご意見ありましたように、形ではなくて、心に何か残るものは、必ず必要になってくるのではないかとご意見もいただきました。総合的な観光拠点の中身は、海、漁業との関係、魚が顔が出てくる。それから農産物がここにある。利用者は、是非団体を入れるべきだとか、それから必須として足湯があって、そこから海の景色が見えるというのは、非常に売りではないかとかいうご意見がありました。また浜買いですとか、体験ですとか、いろんなことをこの中で含め込めて、ハードとソフトと両面整ったものにしていくべきではなかろうかと。ここだけではなくて、漁港の未利用地、あるいはアミティも含めて、広域的な役割分担というか、そういったものも必要になってこようかなということでもあります。

いずれにしても、高速道路ができてインターチェンジから、非常に便利な未利用地が将来生まれるということで、その利点を、是非活かしていくべきではないかというのが、皆様のご意見であったかと思えます。

では、一旦この辺で、このテーマのご意見は留めて、これらのご意見を含めて、引き続き、次の部会の方で議論を進めてさせていただきますので、いただきましたご意見をもとに、さらに部会で検討をして参りたいと思えます。

前回の会議で、私の方から、漁港や漁業関係者のご意見を交えて議論をしたらどうかという今日のご意見もありましたけれども、事務局の方で準備をさせていただいておりますので、資料8について、説明を最後にお願ひしたいと思えます。

<木本観光振興課参事>

はい。それでは資料8につきまして、説明いたします。観光振興課の木本でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。着座にて説明をさせていただきます。

議長からございました、検討部会の議論等に加わっていただきます漁港や、漁業、海業等の漁業関係者として、5名の方をご提案いたします。

上段の表区分、検討委員（漁業関係者）欄をご覧ください。まず、京都府の漁業協同組合様の方から、地元網野支所の支所長でございます、中西学様。次に、北丹水産物商業協同組合、こちらは仲買人の組合になります。こちらの代表理事、櫻本和雄様。漁業者ということで、京都府機船底曳網漁業連合会から、代表理事の岡田政行様。遊漁船の事業者様から2名ということで、船長の井上恵介様、浜岡久也様の2名でございます。

検討委員の7名に加えまして、合計12名ということですが、なお任期につきましては、令和6年4月1日から令和6年9月30日までとしております。以上でございます。

<坂上会長>

ありがとうございます。漁業関係者の方が加わって、検討部会を作るということで、ただいまの説明に対しまして、ご意見ご質問ございませんでしょうか。より関係者が集まるということで、結構かと思えますが、いかがでしょうか。特によろしいでしょう

か。はい。ありがとうございます。では、臨時に前回の意見での検討委員会委員の追加ということは、この方向で進めさせていただきたいと思います。

議事は以上でございます。大変活発なご議論をいただきまして、ありがとうございます。

最後に、大江課長が、3月で終わるということで、私の会長の権限で、大変ありがとうございました、一言申し上げます。議事は以上です。マイクをお返しします。

<高橋商工観光部長>

ありがとうございました。坂上会長どうもありがとうございました。スムーズな進行ありがとうございます。それで、委員の皆様、大変参考になる貴重なご意見たくさんお聞かせいただきました。また事務局の方で、整理をさせていただきたいと思います。

次第3ということで、その他ですけれども、皆様から何か情報提供等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

<坂上会長>

資料は回収でしょうかという。

<大江観光振興課長>

お願いします。

<坂上会長>

全部ですか。これだけを差し替えるということで。

<高橋商工観光部長>

差し替えをお配りさせていただいております。差し替え、ちょっと事務的にさせていただきますので、その他、何か皆様方から情報提供等ございましたら。はいどうぞ。

<濱口委員>

今ですね、丹工のですね、精練加工場の方を、オープンファクトリー化する工事に入っております、今着工しております。それで、今、工場内の設備の方のところもあるところまでは出来たのですが、その後の部分のショップを作るというところで、ちょっと議論がややこしくなっております、ちょっとゴールデンウィークごろにオープンできればというような準備ではいたのですが、もうちょっと延びそうになっております。6月ぐらい、6月、7月頭ぐらいからは、工場見学、精練の工場見学と、後はそこに付随するショップというようなものができますので、また、その辺、オープンにできるでしょう。皆様にお知らせしますので、ぜひお使いいただければなと思っております。

あと、今年ですね、求評会も10月の3週目で、火、水、木、土の4日間で、3週目の4日間でやります。これから丹工の事業は、もう求評会という部分で、着物に付随するようなイベントを、是非くっつけていただいて、そこに秋口の、一番良い季節なんですけれども、丹後にはなかなか観光客が来ないというタイミングで、着物のイベントみたいなものを1つ、形作っていけるように集約させたりとか、あとは今オープンファクトリーが、機械金属の方もかなりやっている事業者さんとか、あとこの前、商工会の

方で、大宮地区のいろんな事業者さんの工場見学をさせていただいたのですが、そういう体験ができるみたいなものも含めて、何かこう、ちょっと今までと違う人の集め方というのを、もう1つ10月の辺に固められたらいいなというので、振興局の方にもそういうご提案をしております。またそのあたりもちょっと心に留めておいていただければと思います。ありがとうございます。

<伊豆田委員>

そこは何が出来るのですか。

<濱口委員>

シルク、絹織物というものは、作った時は、絹というものは、フィブロインという糸と、その周りに糊みたいなの。セリシンというものがついているのですが、そのセリシンという糊というものがあることで、それを振じって、それを横糸にして、織り上げて、セリシンを落とすと、ちりめんのシボができるという、そのシボを作るために、絶対必要な工程の精練というものがあつたのですが、その日本の中で、白生地と言われている後染めの生地の9割が、大体今丹後で作られています。そのうちの、7割というのが、加工場で精練されている状態ですと、ここが無くなりますと、日本から新しい着物ができてくるところがなくなってしまう場所なので。とはいえ、なかなか毎年毎年着物の需要が落ちているので、そういう部分を皆さんに知っていただくためにも、そういう場所の見学という、日本でここでしかできない見学ですから。そういう場所にしていこうということになっております。よろしくお願ひします。

<高橋商工観光部長>

ありがとうございました。日本で最大級の規模の精練精練加工施設ですので、また、皆さんご見学いただけるようお願いしたいと思います。

その他、はい、どうぞ。

<田矢委員>

先ほどご紹介いただきました美食の町の認定なんですけれども、そのことを、どんな形で活用していくか、方向性みたいなものというものはありますでしょうか。

<高橋商工観光部長>

また、4月にこのアワードの表彰式をちょっと受けたいという風に思いますので、その際に、多分発表させていくことになるかと思ひますがけれど、まだちょっと、具体は申し上げられませんが、活用する方向では当然あります。よろしくお願ひします。また、皆さんと活用していきたいと思ひます、よろしくお願ひします。

その他、何か情報共有していただける方。よろしいですか。

はい。それでは、特にこれでないようですので、あと事務局の方から少し連絡事項ありましたら。

<大江観光振興課長>

それでは、この後ですね。検討部会を10分後に開催させていただきますので、長時間で申し訳ないのですが、検討部会の委員の皆さんだけお残りいただきたいと思っております。

<高橋商工観光部長>

それでは、検討部会の皆さんは、長時間になり大変恐縮ですが、よろしくお願ひしたいと思います。次回は、8月に全体会議を開催ということで、ご予約をいただければと思います。

本日はこれで閉会をしたいと思いますので、閉会のご挨拶を、田中副会長の方からご挨拶をいただいて終わりたいと思っております。お願いいたします。

<田中副会長>

はい。手短にです。先ほど、すいません。濱口さんが言われたのですが、セリシンのお話をされたのですが、情報共有のところで言えばよかったかもしれませんが、七緒の編集長が、ちょっと先日ちょっとお電話いただくことがあって、絹模様の入浴剤ですね、あれを使って、睡眠がすごく充実してということで、ちょっとそんなコメントがあってちょっと動きがあったりしたのです。

本当に、もう1つごめんなさい。私、峰山、緑風高校もすごく頑張っておられるのですが、峰高の評議員をしてまして、その中で卒業式の方に、出席させていただいた時に、会長さん、卒業生の子が、立派な冬辞された中で、あまりに感激して、私、お母さんのところに、ちょっともう感激しましたってお話をさせていただいたのです。そうすると、彼は進路どうされるのですかと聞いたら、JICAを目指すんだということで、そういう進路。京丹後市のために、海外でいろんな勉強をして、僕は京丹後市に戻ってきて、京丹後市のために頑張りたいんだという、今思ってもちょっと涙が出るのですが、そういう子供たちが、今いるんですよ。

皆、若いですが、ちょっと高齢で、何年、10年後なのか、高速道路がつく。それから都市拠点の問題。いろいろありますけれども、どうしてもこの人数が減ってくる中で、コンパクトシティとか新しい市のあり方とか、そういうものをやっていく中で、これだけ魅力的なものがある中で、万博に向けて動いてる中で、みんなの業種が動いて一生懸命、次に向かってこうやってるイメージなんですよね。その時に、万博が終わった後に、やっぱり京丹後市を目指して、やって住む。それからここで子育てをしたい。訪れてみたいというところに向けて、是非、私はもう、子供達のために、孫達のために、未来ある人達のために、全力を尽くしてこういう会議はやっていきたいかなと思うので。皆さん、そこは何でしょう、京丹後市の市の職員さんも、本当に寝る間を惜しんで、色んなことをやっておられますので、そこへ、こういう会議のメンバーは、一生懸命協力させていただくというつもりで、今後ともよろしくお願ひしたいかと思っております。

文化の拠点。それから海の拠点。いろんな拠点ができてくるところが、色とりどり、この広さを活用したまちづくりができるのではないかなと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。お疲れ様でした。

<坂上会長>

すいません。モニターで参加をいただいています、あきんどさんに、ご発言を忘れて、失念をしております、大変恐縮です。是非、よろしくお願ひします。どうぞご意見ございましたら。

<久田委員>

ありがとうございました。本日は、そちらの方に参加できず申し訳ござませんでした。ちょうど一昨日まで、うちのグループ社員と一緒に京丹後市の方を訪れておりました、今日、皆さんの色んなご意見をですね、正に体感と言いますか、直接、一緒に来た参加者から聞いた言葉が、結構出てきて、凄くためになりました。

この後、役不足かと思ひますけれども、検討部会の方にも参加させていただきますので、より良いものになるよう微力ながらお手伝ひ出来ればと思ひておりますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

<坂上会長>

ありがとうございました。失礼いたしました。

<高橋商工観光部長>

はい、ありがとうございました。それでは、皆様方、これを持ちまして、令和5年度第2回京丹後市観光立市推進会議を終了とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。お疲れ様でございました。